

## 後援会常任理事会挨拶

2020年6月7日

みんな、こんにちは。校長の井瀬です。よろしくお願いいたします。

この場をお借りしまして、学校の状況のお知らせとお願いをさせていただきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症のリスクを考え、4月6日の始業式もせず、本校は休校に入りました。4月16日には緊急事態宣言の対象が全国に拡大され、5月11日から予定していました通常授業は難しいと考え、オンラインによる遠隔授業の学内講習会を始めるとともに、5月1日に、授業は遠隔で開始することを決め、学内・学生・保護者のみなさんに通知しました。

高知県の状況は、5月14日に緊急事態宣言区域の対象外となり、浜田知事から、県立学校は原則5月25日から再開、個別に協議の上、一部前倒しで再開、のメッセージが出されました。

5月25日にはすべての都道府県で緊急事態宣言が解除される状況になりまして、高知県から新たな目安(4つのステージ)が公表されました。

5月26日には高知県教育委員会から休校の判断基準が提示されました。それによると、直近7日間の感染確認が3日に1度程度以下の場合、学校は開校してよく、教室内間隔を1メートルに保ち、グループ学習は感染対策して実施してよい、というものです。高知県は、今、この基準に当てはまります。

本校は、寮があり、寮生が全体の半数以上いるということを前提に、高知県の県立学校の再開(5月25日)や全国での緊急事態宣言の解除(5月25日)等を考慮し、2週間遅れの6月8日より、寮は個室にして、学年別分散登校で学校を再開することにしました。

高専機構からの開寮に関するガイドは、「感染リスクの徹底的な洗い出しと対策」と、「入寮者数の削減の工夫」や「一人部屋への工夫」が出されていますが、開寮の判断、同時に学校再開の判断も各校に任されている現状です。

本校では、オンライン授業では対応が難しかったり、不安だったりする学生がいること、また、オンライン授業ではやるのが難しい実験・実習等の学習をさせたいこ

とから、対面授業を早くしたいと思っていて、そのためには、寮は一人部屋にして再開する、としました。

今の二人部屋を一人部屋にするためには、人数を制限しなければならないので、学年別の分散登校とし、学年の順序は、まだ学校で一度も授業をしていない1年生と卒業を控えた5年生から始める、と決めました。

これから夏休みまで(8月7日まで)に、各学年、3週間から4週間の対面授業です。今日が6月7日なので8月7日までちょうど2か月です。

高知県では1か月以上、新規の感染者が出ていない状況ですが、全国ではまだ出ています。

こういう状況で、悩ましいのが、8月25日からの夏休み明けです。私としては通常授業に戻したいと思っていますのですが、6月、7月、8月が今以上に落ち着いて、寮が二人部屋でもやれると我々も保護者の方も確信がもてるか、今、判断は難しいですが、8月初めには決めておかねばなりません。8月7日以降はお盆で人の移動が全国で行われるのも悩みどころです。

また、もし、寮生の半数の200名が通学できるようなことになれば、寮は一人部屋になり、通常授業ができそうですが、そうすると、今度は、遠くから通うことになる学生の通学時の感染リスクが、寮にいるより高まるのではないかと私は感じています。

いろいろな対応を考えねばなりませんので、寮生の半数が、感染リスクが低く、しかも低費用で通学できる手段を洗い出してほしいと教職員にお願いしました。

高専には寮があり、それが高校とは違う大きな特徴になっています。学校再開は寮の再開がキーになり、高専機構が寮の再開に気をもんでいるのはわかります。しかし、寮を一人部屋にできたとしても、教室は通常授業なら、感染のリスクは教室の方が高いくらいなのではと私は思ったりもします。

このあたりのところは後援会のみなさんの賛同を得られなければ進めていくのが難しいところだと思っています。みなさんからいろいろ助言をいただければと思っています。

よろしく願いいたします。